２０２６年1月１１日（日）　　日本基督教団　大宮教会

降誕節第３主日

大宮教会ビジョン
「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
（マタイによる福音書28：19〜20）

朝第１礼拝　9:00〜10:00
朝第２礼拝　10:30〜11:45
夕　礼　拝　18:00〜19:00

〈神の招き〉前　　奏　① 古き年は過ぎ去り　バッハ
② 主なるキリスト、神のひとり子　ブクステフーデ
夕 日にして光なるキリストよ　パッヘルベル
招きの詞　詩編９６：１〜１３
交読詩編　３６：６〜１０
讃美歌　４
〈神の言葉〉聖　　書　民数記１２：２〜８　（旧約　聖書協会共同訳 218 頁）
ヘブライ人への手紙１：１〜４　（新約　聖書協会共同訳 392 頁）
祈　　祷
讃美歌　５３
説　　教　「御子イエスを通して語る神」　熊江秀一牧師
祈　　祷
黙　　想
讃美歌　２４５
〈神への応答〉使徒信条
献　　金
主の祈り
宣教報告②夕
頌　　栄　２７
派遣と祝福
後　　奏　① 暁の星のいと美しきかな
② 主なるキリスト、神のひとり子　シャイデマン
夕 我らを恵みて祝したまえ　パッヘルベル
宣教報告①

今週の御言葉
神は、かつて預言者たちを通して、折に触れ、さまざまなしかたで先祖たちに語られたが、この終わりの時には、御子を通して私たちに語られました。
（ヘブライ人への手紙１：１〜2a）

次週の礼拝（1月18日）

① ９：００、② １０：３０ 説教「天使にまさる御子イエス」熊江秀一牧師 詩編４５：１〜８、 ヘブライ人への手紙１：４〜１４ 交読詩編１００：１〜５ 讃美歌６、５４、３５１、２７	夕１８：００ 説教「安息日の主」佐藤潤伝道師 申命記５：１２〜１５、 ルカによる福音書６：１〜１１ 交読詩編１００：１〜５ 讃美歌３、４０３、４４２、２５

＊礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。＊◦は祈祷当番の方。＊①は朝第１礼拝、②は朝第２礼拝、夕は夕礼拝。

■今週の祈祷課題■　独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。
１．キリストの体なる教会が豊かに形成される為に　２．東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
３．各部の交わり（御言葉に聴く会）の為に　４．関連幼稚園の３学期の為に
５．新成人の為に　６．埼玉地区（地区デー）の為に
７．イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、世界の平和の為に　８．病気の兄姉の為に
＊関東教区お祈りカレンダー　志木教会　埼玉和光教会　朝霞教会

◇先週の説教より「主が共に働かれる新年」マルコによる福音書１６章１９～２０節、詩編１３９：１～１８　熊江秀一牧師

　新年礼拝にマルコ福音書の最後の箇所が与えられた。元旦礼拝に読んだ弟子の派遣に続く、主の昇天と結びである。それは今に至る教会の歴史でもある。

　まず主の昇天が記される。それは主イエスが私たちを天の神の御力を持って治めることである。その支配は、時も空間も、生も死も越えた永遠なる支配である。
ここに「主イエス」とある。この呼び方はこれまでのマルコ福音書にもなく、他の福音書にもない。

　この結びの箇所は、後の教会が他の福音書を用いてマルコ福音書に付け足した。すなわち４つの福音書を読んだ後の教会が、全ての福音書を通してイエスを礼拝の対象として「主イエス」と呼んだのである。

　そして教会は確信した。主イエスは今、天において、神の御力を持って時も空間も越え、私たちの生も死も越えて、支配しておられる。このお方こそ礼拝すべきお方であると。この確信は私たちの確信である。

　そして主のご支配を確信した弟子たちは「出て行って、至るところで福音を宣べ伝えた」。彼らは迫害の中も宣教に仕えた。それは「主が彼らと共に働き」「彼らの語る言葉を確かなものとして下さった」からである。復活の主ご自身が共に働いて「しるしを伴わせる」ことによって、弟子たちの語る言葉を確かにされた。だから弟子たちは宣教に仕えることができた。
それは言い換えれば、主ご自身が生きて働いて福音を宣べ伝えていることである。
「その後、イエスご自身も、東から西まで、彼らを通して、永遠の救いに関する聖なる朽ちることのない福音を広められた。アーメン」

　教会はそのことを確信して、今に至るまで宣教に仕えてきた。そしてこれからもこの確信を持って宣教に仕える。

　この新年礼拝にこの信仰の希望と確信を持って歩み出そう。